

国際交渉の技術

桜美林大学大学院 経営学研究科特任教授 原田節雄氏

日本は民主主義と言われていますが、民主的な会議とはどんなものでしょう。これも極端な考えですが、民主的な会議とは1000人集まれば、1000人が全員一致。これが民主的な会議の基本です。全員一致が民主的な会議の基本です。では時間はどれくらいかかるのか。時間は無制限です。ですから、会議の時間はいつまでと決められていない、無制限というのであれば、それは100%民主的な会議です。全員一致まで、死ぬまで議論を聞かせる。

専制的な会議というのは、ぜんぜん時間にとらわれない。極端に言えば、偉い人がこれにすると言ったら1秒で終わる。これが専制的な会議です。

民主と専制的会議の違いは、時間の発端をみればすぐに実態が分かります。例えば3時間会議をしましょうというのであれば、それは相当民主的です。1時間でもまあまあです。

国会の会議はどうですか。質疑と答弁をやってすぐに多数決。これは専制的民主主義です。

欧米の会議は日本の会議とまったく違います。欧米の会議はあくまで全員一致をめざします。

次に椅子置きゲームと、椅子取りゲームというのがあります。

椅子置きというのは自分でビジネスをやる上で重要ですが、椅子取りというのは、何かをとろうとするときに、選択肢はあるのですが、誰かが除外されるという会議です。

日本人は、参加各国のメンバーがこの椅子取りをやっているときに、寝ている人が多いです。起きていて、自分が椅子をとろうとしないといけないのに、日本人の悪い癖として、英語がわからないから会議になったら寝ている。見た目は寝て見えない、目を開けていますから。帰ってから、なんで決まったんだ？ということになります。

（中略）

ロバート議事法は四つの権利があります。

多数者の権利（過半数の賛成）、少数者の権利（少数意見の尊重）、個人の権利（プライバシーの擁護）、不在者の権利（不在者投票）です。

そして四つ原則があります。まず一時一件の法則。つまり一つの案件を審議しているときに他の案件を持ち込まないということです。一時不再議の原則。一度決まったことを時間が経ってからあれはおかしいからということとはできない。再審議はさせない。そして多数決の原則。最後に定足数の原則。

欧米の人はこれを学校で習っています。したがって、会議はこうするものだということがわかっているのですが、日本人は高校や大学で習った人はいないと思います。展開をみたら分かります。これは原則ですから、原則ということは二面性があり、使い方次第です。規則を知り、それを使うことです。